

国語科学習指導略案（第2学年A組 男子15名，女子19名）

平成30年9月26日（水）4限

授業者：宮下 敦郎

- 1 単元名：哲学的思考のすすめ
- 2 単元：広がる言葉
- 3 本時のねらい：「頻度」を表す言葉を整理することを通して、その種類の多様さと意味の違いに気づき、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（言語についての知識・理解・技能）
- 4 準備物：教科書・ワークシート・付箋・国語辞典
- 5 本時の学習過程（第5時／全6時間）

<p>生徒の学習活動及び発問・予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な「頻度」に関わる例を挙げる。</li> </ul>	<p>・留意点 ○評価【観点】（方法） ※手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普段の言語生活を振り返らせ、様々な頻度を表す言葉を既にある程度知っていることを自覚させる。</li> </ul>
<p>めあて：「頻度」を表す言葉のレベルを明らかにしよう。【焦】</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「頻度」の意味を国語辞典で確認する。</li> </ul>	
<p>〈主活動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで付箋に「頻度」を表す言葉をできるだけ多く付箋に書き出す。</li> <li>・グループで「頻度」を表す言葉を書いた付箋を、高低順に並べる。 【共】</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1グループを指名し、黒板に頻度を表す言葉を高低順で板書していく。</li> <li>・他グループを指名し、高低の適当な位置に、追加で板書していく。黒板がいっぱいになるまで続ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※様々な例文を示しながら、できるだけ多くの頻度を表す言葉を挙げさせる。</li> <li>※教科書巻末の頻度を表す言葉を参考にさせる。</li> <li>・【視】 【共】</li> </ul>
<p>山場：なるほど、「頻度」を表す言葉には、こんなに種類があるのか。その状況に適した言葉を、吟味して使用していく必要があるのか。</p>	
<p>〈めあての評価〉</p> <p>○様々な頻度を表す言葉の意味を理解することができる。</p> <p>【言語についての知識・理解・技能】（ワークシート）</p>	
<p>〈振り返り・まとめ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の例題に取り組み、どんな言葉を入れることができるかを確認する。</li> <li>・本時で学んだことをワークシートに記入する。</li> </ul>	<p>〈ねらいの評価〉</p> <p>○抽象的な語句について理解して読み、語感を磨き、語彙を豊かにしている。</p> <p>【言語についての知識・理解・技能】（ワークシート）</p>